

# INTERPRAEVENT 2004／第5回行政官会議報告

中村良光\* 藤田久美子\*\*

## はじめに

イタリア北部の都市、トレントにあるリバデルガルダにおいて、5月24日から30日にかけて、INTERPRAEVENT 2004が開催され、5月26日には、第5回行政官会議が開催された。筆者らは、この2つの会議に参加する機会を得たので、ここに概要を報告する。

## 1 INTERPRAEVENT 2004

国際防災学会INTERPRAEVENTは、洪水、土石流、地すべり、落石、雪崩などの災害防止・軽減対策について研究し、技術・知識の普及を図ることを目的として、ヨーロッパアルプス諸国において、1967年より、基本的に4年に一度開催され、日本は1980年から参加している。前回は4年ごとの会議の中間年に、初めてヨーロッパを離れ、長野県松本市にて「インタープリベント2002」が開催された。今回は、2008年にオーストリアで開催される予定である。これまでの会議開催は、表1の通りである。

表1 INTERPRAEVENT開催経緯

開催年	開催場所
1967	オーストリア、クラーゲンフルト
1971	オーストリア、クラーゲンフルト
1975	オーストリア、インスブルク
1980	オーストリア、バート・イッシュル（日本初参加）
1984	オーストリア、フィラッハ
1988	オーストリア、グラーツ
1992	スイス、ベルン
1996	ドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘン
2000	オーストリア、フィラッハ
2002	日本、松本
2004	イタリア、リバデルガルダ

\* (財)砂防・地すべり技術センター  
砂防技術研究所技術部長

\*\* (財)砂防・地すべり技術センター企画部国際課専門職

開催日時 2004年5月24日～30日

- 5月24日（月）開会式 セッション1：災害とモニタリング、2：水文現象
- 5月25日（火）セッション3：自然現象、4：地すべり、5：落石、6：雪崩
- 5月26日（水）現地視察及びセミナー、行政官会議（次ページ参照）
- 5月27日（木）セッション7：溪流、8：河川改修と形態、9：危機管理、閉会式
- 5月28日（金）～30日（日）現地視察

開催場所 イタリア、トレント州リバデルガルダ

出張者 池谷浩、中村良光、菊井稔宏、藤田久美子  
参加者総数 約500名（日本からは約50名）

参加国数 16ヵ国

主な参加国 イタリア、オーストリア、スイス、ドイツ、スロベニア、フランス（アジアからは、台湾、イラン、ネパールなど）

まとめ セッションでの日本からの発表は、水山高久京都大学大学院教授がセッション1、丸井英明新潟大学積雪地域災害研究センター教授がセッション



ン3、近藤観慈三重大学生物資源学部助教授がセッション4、木村正信岐阜大学応用生物科学部助教授がセッション6で口頭発表を行われた。また水山教授がセッション3の座長を務められた。

当センターからは、菊井稔宏砂防部技術課長が警戒避難システムについてポスターセッション発表を行った。

INTERPRAEVENT2004で配布された論文集について、掲載論文数は201題で、そのうち日本からの論文17題であった。また、日本以外の184題について日本の研究者の論文を引用した論文は22題であった。引用論文総数でみると総数1,837本に対し引用された日本の研究者の論文数25本であった。



写真1 INTERPRAEVENT会場の周辺  
(写真：砂防広報センター提供)



写真2 INTERPRAEVENT開会式

## 2 行政官会議概要

日本の建設省砂防部の提唱で、学問、技術面の情報交換だけでなく、行政面に関する情報交換や問題点を討議するための場として、1992年のINTERPRAEVENT（スイス）において、INTERPRAEVENTの会期中に国際砂防行政官会議（Summit）が開催されるようになった。これまでの会議開催は表2の通りである。

開催日時 2004年5月26日

開催場所 イタリア、トレント州リバデルガルダ

出張者 池谷浩、中村良光、藤田久美子

主な参加国及び地域 オーストリア、日本、スイス、  
ババリア、スロベニア、トレンティノ、南チロル、  
アオスタ

日程

**Part1** (9:00-12:30)

議長：イタリア Mr. S. Silvano

副議長：国土交通省砂防部 近藤部長

開会 ● 自己紹介、開会の目的（国土交通省砂防部  
近藤部長）

● 「国際砂防協会」の紹介（国際砂防協会大久  
保会長）

表2 行政官会議開催経緯

	開催年	開催場所
第1回	1992	スイス、ベルン
第2回	1996	ドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘン
第3回	2000	オーストリア、フィラッハ
第4回	2002	日本、松本
第5回	2004	イタリア、リバデルガルダ



写真3 行政官会議風景

- 「Alpine Convention Platform」の紹介（ドイツ）
- カントリーレポート（日本、オーストリア、ババリア、スロベニア、トレント、南チロル、スイス：計7地域、参加国のうち、地域によって砂防行政が違う国があるため、国別ではなく地域別となっている）

## Part2 (14:00-20:30)

議長：INTERPRAEVENT会長 Mr. Rohner

副議長：スイス Mr. Goetz

保全対象・警戒避難・危険区域設定手法・  
保全概念・災害緊急対策・防災啓発活動に  
関する議論  
結論／まとめ

まとめ 本会議では、自然災害軽減に関する問題、方針、活動と国際協力について議論された。

会議は、2部に分かれており、Part1では、国際レベルでの情報交換が重要であるという点から、ドイツの代表者より、Alpine Conventionがとりまとめている、“International Platform for Natural Hazards：自然災害のための国際要綱”について紹介があり、次に日本の国際砂防協会、大久保会長より、国際砂防協会の紹介があった。国際砂防協会は、国際砂防ネットワーク<http://www.sabo-int.org/>（本誌Vol.75において紹介）の活動を充実するために設立されたものである。

Part2では、特に、自然災害に対する脆弱性と気候変動がもたらす災害への対処について議論がなされた。その他、ますます複雑になっていく災害対策を、できる限り少ない予算と人材で、どのように対処していくかについて議論された。各参加者は、それぞれの経験や各地のニーズに基づき、持続可能性と総合的な取り組みについて紹介した。

Part1の結論として、“International Platform for Natural Hazards”と国際砂防協会の活動の重要性を認識し、支援することとなった。またPart2の結論として、国際間での情報交換がより一層必要であるため、INTERPRAEVENTに併せて開催していた行政官会議を、毎年行うこととし、INTERPRAEVENTへの報告を行った。

## おわりに

ヨーロッパ諸国では、一つの流域を共有する国が多いため、例えば上述のAlpine Conventionの活動もそうであるが、複数国が共同でプロジェクトを進めたり、ホームページを運営することがよくある。その経験をもとに、ホームページの運営に関する、失敗談や具体的なアドバイスなどを頂いた。このことは、国際砂防協会や国際砂防ネットワークの活動を支援する際、大いに役立つと思われる。